

Title	子どもの協調運動の発達に関する研究：行動特性およびQOLとの関連 [ 学位論文内容の要旨/学位論文審査の要旨/日本語要旨/外国語要旨 ] ( 学位論文審査の要旨 )
Author(s)	戸次, 佳子
Citation	
Issue Date	2017-03-23
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10083/61348">http://hdl.handle.net/10083/61348</a>
Rights	
Resource Type	Thesis or Dissertation
Resource Version	publisher
Additional Information	There are other files related to this item in TeaPot. Check the above URL.

This document is downloaded at: 2018-03-17T06:26:25Z



## 学位論文審査の要旨

学位申請者	戸次 佳子【論文博士】 【人間発達科学専攻 平成24年度生】 (平成27年9月30日 単位修得退学)	要 旨
論文題目	子どもの協調運動の発達に関する研究 —行動特性およびQOLとの関連—	<p>協調運動発達の障害が、子どものQOLを低下させること、また注意欠如多動症などの発達障害に協調運動障害が合併しやすく、それらの子どものQOLを低下させる一因になっていることが知られている。発達障害と定型発達児は、連続したものであり、定型発達児であっても協調運動の発達に遅滞がある場合には、QOLが低下するのではないかという仮説を立て、その検証を行った研究である。小学2年生と5年生の対象児の親を対象としたQOLと行動特性の質問紙調査と、対象児の直接観察による協調運動の実態調査を行い、それらの間の関連について統計的分析を加えた。その結果、年齢が長じるにつれて、協調運動は発達するが、その様相に性差があること、さらに、協調運動能力とQOLならびに行動様式の間には、有意な相関があり、特にQOLの間には有意の負の相関関係があることを証明した。さらに、協調運動と、QOLの相関関係は、学年と性別によって一様ではないことを明らかにした。</p> <p>第1回目の審査会（平成28年9月9日）では、発達障害児についての記載が多く、定型発達児を対象とした展開とマッチしないこと、データ量に比較して説明が少ないなど、論文構成についての修正意見がだされた。</p> <p>第2回目の審査会（平成28年11月14日）では、一回目に指摘された点についての修正は十分であったが、結果の性差の意味づけ、また先行研究として引用されたワロンの解釈などについて意見がだされた。</p> <p>第3回目の審査会（平成29年2月1日）では、公開審査会に向けたプレゼンテーションの試行を兼ねて行われたが、修正指摘点について、ほぼ満足の行くレベルまで修正がなされており、最終審査（公開審査）に進むことが可能であると判断された。</p> <p>平成29年2月24日に行われた最終（公開）審査会では、分かりやすいプレゼンテーションと、その後の参加者からの質問への適切な回答などから、審査委員全員が、戸次佳子氏が博士（学術）(Ph. D. in Child Studies)を授与するにふさわしい能力を有すると判断した。</p>
審査委員	(主査) 教授 榊原 洋一	
	准教授 刑部 育子	
	教授 浜口 順子	
	教授 小玉 亮子	
	教授 篁 倫子	
インターネット 公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否（ 否 ）</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p>ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p>イ. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p>○ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p>エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p>オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※ 本学学位規則第24条第4項に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	